

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591500131		
法人名	エポックワン有限会社		
事業所名	グループホームこもれば城ヶ丘		
所在地	山口県周南市城ヶ丘4丁目3536番地1		
自己評価作成日	平成24年10月1日	評価結果市町受理日	平成25年4月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成24年10月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・施設内に閉じこもらないように、屋外で過ごす時間を多く持つようにしている。 ・自治会に入会し、地域の行事にも積極的に参加している。地域の方も参加できるイベントも開催している。 ・看護師を2名配置し、健康管理、医療機関との連携に力を入れている。 ・季節や本人の嗜好に合わせた活動を様々に提案し、刺激のある日々が送れるように支援している。 ・月々の介護目標を立て、利用者さんの安住の場所づくりの努力をしている。 ・苑内学習、外部研修に積極的に参加して、職員の意識向上に努めている。

前回の外部評価結果を職員全員で話し合い、地域密着型サービスとしての理念の作成、全職員での評価への取組、計画的な内部研修の実施、運営推進会議のメンバーの検討や議事録の記載方法の工夫など、具体的に改善され、評価に対して真摯に取り組まれています。朝の散歩や外庭でのレクリエーション、デパートでの買い物、公園など自然あふれる場所へのドライブ、朝市、初詣等、一人ひとりの行きたい場所を本人や家族に聞き、個別に対応して支援されるなど、利用者が閉じこもらないように、屋外で過ごす時間を多く取れるように工夫しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに heisei25nenn4gatu1hi
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての理念を踏まえ、事業所独自の運営理念を作成し、ホールにも掲示している。昨年の外部評価で指摘を受けた地域密着型サービスとしての理念も追加して掲示した。	「私たちは地域とのかかわりを大切にしながら喜びと楽しみと安心を提供しています」という理念を新たに加え、事業所内に掲示している。管理者、職員は理念を共有し、実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設当初から自治会に入会し、地域の清掃活動や夏祭りなどのイベントに積極的に参加している。地域からも、自治会の一員としての貢献度を認知されてきている。自治会の会議にも参加し、苑を社会資源の一つとして活用してもらえるように提案している。	自治会に加入し、職員は地域の清掃作業に参加している。利用者は職員と一緒に地域の夏祭りに参加したり小学校の運動会の見学をする他、ボランティア(週1回のお話ボランティア、月1回の傾聴ボランティア、化粧、日本舞踊、フラダンス等)の訪問があるなど、交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の集会所で行われるサロンを生かして、情報発信や啓発活動を行うことの提案を受けているが、まだ実施に至っていない。自治会にて検討していただけるようお願いをした。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	昨年評価を受けたことを参考にし、職員に意義や内容を説明し、自己評価も職員会議で全員で行った。会議や日々のミーティングで、改善方法を検討・実施している。	一つひとつの評価項目の意味を理解し、全職員で自己評価に取り組んでいる。地域密着型サービスとしての理念の作成、全職員での評価への取り組み、運営推進会議のメンバーの検討、議事録の記録方法の工夫、計画的な内部研修の実施など、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を実施。これまでに地域との交流の方法や施設内の改善について具体的な意見をいただいている。その都度実践し、次回の会議までにその報告を挙げるようにしている。会議録は、昨年の指摘を受けて、詳細に記録している。出席メンバーも増えている。	自治会長、地元住民をメンバーに加え、2ヶ月に1回開催している。利用者の状況、行事等について報告し、事業所と地域との関わり方やいきいきサロンへの参加等の提案について話し合い、そこでの意見をサービスの向上に活かしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市担当者にも出席をいただき、アドバイスをいただいている。また何かあれば電話、直接担当課に出向く方法で、運営に関する助言をいただくようにしている。	市担当課と、運営推進会議の他、電話や直接出向いて相談し、助言を得るなど協力関係を築いている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間を除いては、正面玄関やそこに至るまでの戸には施錠しないようにしている。不安や帰宅願望が強い利用者にも行動の制限はせず、ドライブや散歩など臨機応変に対応している。	身体拘束について学び、職員は理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日頃から、スピーチロックについては職員同士で注意合っている。玄関は施錠していない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待予防マニュアルを作成し、それに基づいて職員への指導、意識向上を図っている。対応困難なケースについては、職員の悩みや思いを共有し、対応方法を話し合うことで、過度なストレスがたまらないようにしている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアマネに講義してもらい、職員が学ぶ機会を設けたが、自分のものとして十分理解するまでにはなっていない。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居調整時に、契約内容と重要事項説明書の内容の説明を時間をかけて行い、理解と納得を得るように努めている。内容の変更がある場合も、事前に書面にて説明、了承をいただくようにしている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の受付については、重要事項説明書に窓口の設置を明記している。	契約時に相談や苦情の受付体制、外部機関、処理手続きを家族に説明している。家族の面会時に担当者が利用者の状況を伝えたり、誕生会や運動会、外食などの行事参加時に家族の意見を聞いている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の職員会議で全員の意見を集め、次の行動、改善につなげている。また日々起こる課題についてはユニットリーダーを中心に話し合い、対応を決めている。	毎月の職員会議やユニットごとのミーティングで意見をや提案を聞く機会を設ける他、日常の業務の中でも聞いている。月1回の法人の責任者会議で報告している。レポートの提出や職員会議の中から行事の企画提案や省エネ対策などの意見を運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得や外部研修に積極的に取り組めるように、勤務を調整している。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内の勉強会や、外部研修の機会を利用して、スキルアップを図っている。特に新人職員については、チェックシートやプリセプターの仕組みを活用して、指導強化につなげている。	外部研修は、職員の段階や希望に応じて受講の機会を提供し、受講後は復命報告をして、職員間で共有している。内部研修は、毎月の職員会議時に計画的に実施する他、新人職員は、先輩職員が指導し、働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との情報交換や交流はほとんど行っていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前は必ず本人と面談する機会を持ち、悩みや思いを聴くようにしている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前は必ず家族と面談する機会を持ち、何に困っているか、ホームに何を望むかを聴いている。施設見学や質問も常時受け付けている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の思いは把握し、必要に応じた他のサービスの検討をして対応している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者あつての職員、ホームであるということ、「お互い様」の精神を大切に、会議などでその気持ちを確認しあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	面会に来られた家族が気持ちよく過ごせるよ うに、挨拶と気遣いを大切にしている。親族 間の関係が難しいケースでも、それに合わ せた対応をし、関係を取り持つことに努めて いる。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの地域での暮らしや習慣を知るた め、アセスメントの段階で本人、家族から聞 ける範囲で情報を得ている。これをプランで 日常のケアやコミュニケーションに生かして いる。	入居時のアセスメントで、今までの暮らしの中 での馴染みの人や場所を確認している。友人 や知人の来訪がある他、家族の協力を得て 墓参りや法事、結婚式への出席、外泊など馴 染みの関係が途切れないように支援してい る。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	各ユニット毎にホールが2つあることを生かし、その日の状態や人間関係に配慮しながら、安心して過ごせる場所を設定している。椅子やソファの配置で、一緒にいながらも1人の時間を楽しめる工夫もしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	まだ利用終了のケースが少ないが、退去後 も遊びに来られたり、相談したいとの希望に は応えるようにしている。退去後のご様子に ついては、情報を得るように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	「1人ひとりの人権尊重、個別ケア」を理念に 掲げているが、まだ十分に実践できていると は言えない。日々のカンファレンスで、少し ずつ職員の思いを理念に近づけている現 状。	入居時のアセスメントでのこれまでの暮らしの 把握や、センター方式のシートを活用しての 把握の他、利用者との日々の何げない会話 やかかわりの中で、利用者の思いや意向の 把握に努めている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	アセスメントシートを工夫し、生活歴が把握し やすいようにした。まだ記入と活用は十分に できていない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日カンファレンスを実施し、小さな変化も情報共有するようにしている。「できる」ことを生活に生かすようにしているが、男性利用者については、まだ課題が残る。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議やカンファレンスが滞ることが多く、現状に合った介護計画になっていないこともある。毎日のミニカンファレンスも生かしながら、計画の内容を検討し、変化に対応した計画になるように努めている。	計画作成担当者や利用者の担当職員を中心に月1回カンファレンスを開催し、利用者の意向や家族の意見や要望を参考にして介護計画を作成している。3ヶ月ごとにモニタリングを行い計画の見直しをする他、本人の状態の変化や家族の要望があった場合は、その都度話し合い状況の変化に応じた見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録のほか、日々のミニカンファレンスの記録や連絡ノートを通して、職員間の情報共有を図っている。介護計画の見直しにまでつなげるように取り組んでいる。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を生かして、異常の早期発見、早期受診に努めている。既存のサービスにとらわれない発想でのサービス提供まではできていない。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センター、民生委員、市担当者には運営推進会議に出席していただき、運営への理解と協力を得ている。普段からの地域との関わりについては不足している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時の迅速な対応の必要等から、協力病院への受診をお願いしているが、従来のかかりつけ医を希望される場合はその意向に沿った対応をしている。	2ヶ月に1回協力医療機関の受診をする他、家族の協力を得て、本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。緊急時には協力医療機関の支援を得ることができ、必要に応じて歯科医の往診があるなど、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を2名配置。できるだけ毎日どちらかが現場におり、特変対応や健康管理に携われる体制をとっている。介護職との連携もとれている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院に対し、速やかに書面をもって情報提供を行い、その後も随時訪問し、家族と相談する機会を持つようにしている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関との連携の問題等から、現時点では看取りまでの対応は困難であることは、契約時に説明をしている。	契約時に、事業所の方針を家族に説明している。実際に重度化した場合は、本人、家族の意向を聞き、かかりつけ医に相談し、家族、医師、職員で方針を共有して支援している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	救急救命法の講習会を施設内で実施し、全職員が受講済み。場面を想定した応急手当や初期対応の訓練について、看護師を中心に計画。今後定期的の実施していく予定。	ヒヤリハット・事故報告書に記録し、その日のうちに話し合い、職員会議で改善策を検討して、利用者一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。転倒マニュアル、夜間緊急マニュアル、異常時対応のフローチャートがあり、看護師による勉強会を行っている。応急手当や初期対応の定期的な訓練は実施していない。	・応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導の下、定期的に消火訓練、避難訓練を実施。自治会にも、緊急時に応援をしていただけるように、地域の消防団との連携を、自治会長にお願いしている。	年2回、夜間想定も含む避難訓練、通報訓練、消火訓練を利用者も一緒に実施している。	・地域との協力体制の構築
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の尊厳を傷つけない言葉掛けを常日頃から心がけている。しかし各自の意識に頼っている部分が大きく、事業所としての取り組みは十分ではない。	日々の関わりの中で利用者の自尊心を傷つけない言葉かけや、プライバシーを損ねない対応に配慮して支援している。不適切な言葉かけや対応があれば、管理者が指導している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意志の確認が難しい場合もあり、全ての利用者について自己決定を支援できてはいない。相手に合ったコミュニケーションの図り方で、思いを知ることに取り組んでいる。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務中心のスケジュールにはなっていないが、利用者1人ひとりの希望を把握しきれてはならず、職員が活動や過ごし方を提案している場面が多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員が着る服を選ぶ場面が多い。訪問美容師を月一回利用しているが、なじみの美容院に通う希望のある方は、本人の意向に任せている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皮むきや刻む作業を利用者と職員と一緒に行うことがあるが、全体の調理は職員で行っている。メニューは予め決めているが、季節や行事などに合わせて随時変更している。	調理職員を確保し、法人の献立で、三食とも事業所で食事づくりをしている。利用者は、食材の下ごしらえ、お盆拭き、食器洗いなどできることを職員と一緒にしている。外食、季節の行事食(桜餅や恵方巻き等)、おやつづくり(たこ焼き等)、戸外で弁当を食べたり、バーベキュー大会など、食事が楽しめるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	刻み食やミキサー食など、特別な食事形態にも対応している。体重も把握しながら、適切な栄養、カロリー摂取を勧めている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを勧め、自力では十分できない利用者には介助している。義歯使用者には夕食後、洗浄剤で義歯消毒をしている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表で排泄間隔を把握し、日中は全てトイレ使用で排泄をしていただいている。パット類は形態や吸収量が違うものを数種類常備し、本人にあったものを選択して使用している。	排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、声かけや誘導でトイレでの排泄の支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食やおやつを利用して、乳製品を摂れるようにしている。日中の運動量の確保の為、午前中苑内散歩を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の曜日と時間を、ほぼ職員で決めている。ただし発汗や汚染、本人の希望がある時は、予定に関わらず入浴していただいたり、曜日を変更したりして対応している。	週3日、14時から17時まで入浴可能であるが、希望があれば毎日でも入浴できる。入浴したくない利用者には声かけを工夫したり、翌日に変更するなど本人本位に対応している。家族の差し入れのゆずを入れて季節を感じるなど、入浴が楽しめるよう支援している。	
47		一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中と夜間との区別をつけるため、就寝前のパジャマ更衣はできるだけ勧めている。天候の良い日は屋外で過ごす時間を持ち、夜間良眠できるように支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が薬の管理を行い、本人の状態に合わせて主治医と相談し、量や種類を調整している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を干したり、食器洗いなどの家事作業は喜んで取り組む方が多い。様々な活動や場면을提案し、1人ひとりが楽しめる場면을ケース担当を中心にして考えている。男性利用者は生活場面での役割をもってもらうことが難しく、どう支援していくかは試行錯誤している。	テレビ視聴、新聞や雑誌を読む、将棋、習字、ぬり絵、はり絵、編み物、手芸、食事の準備や片づけ、洗濯たたみ、散歩、園芸等、活躍できる場面づくりや楽しみ事の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員の買い物には、できるだけ利用者に同乗してもらい、外出の機会を増やしている。また外出行事以外にも、地域のイベントやデパートの催しなどに、その当日段取りをして出かけることもある。	日常的な散歩や買い物、ドライブ(米泉湖、永源山公園、緑地公園、スポーツ公園、普賢寺等)、デパートでの買い物、朝市、初詣など戸外に出かけている。一人ひとりの行きたい場所を本人や家族に聞き、個別に対応して支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っておきたいと希望する利用者については、紛失しないように注意しつつ、本人の希望に沿うように対応している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望する利用者には、電話の使用を支援したり、取り次ぐなどの対応をしている。利用を促すまでの支援はできていない。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	苑周辺の草花を採って行ける等、生活感や季節感を感じる空間作りを行っている。温度・湿度は常にチェックし、エアコンに頼りすぎないように、自然を生かした空調にも意識している。	日当たりのよい明るく広いリビングには、テレビやソファの他、テーブル、椅子などを各所に配置しており、壁面には季節にあわせての飾りが貼ってある。室内の温度や湿度、換気、音などに配慮し、居心地良く過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールはテーブルやソファの位置を工夫して、他者の視線を気にせず過ごせる空間も作っている。各ユニットにホールが3つある利点を生かすようにしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	収納を含め、ほとんどの家具や生活用品は、使い慣れた物を持ち込んでもらっている。特に指定や制限をしたことはない。	ベッド、ダンス、テーブル、椅子、衣装かけ、仏壇、写真、絵、手づくり作品など、利用者の使い慣れたもの、好みのものを持ち込み、安心して過ごせるように配慮している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室など、よく利用する場所には掲示をしている。ADLが低下した場合でも生活が継続できるように、開設の段階で手すりや介護器具などの検討、導入をしている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームこもれば城ヶ丘

作成日： 平成 25年 3月 25日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	36	避難訓練は行っているが、訓練のみに終わっており、身についていない。	火災だけでなく、災害時も含めた避難訓練の手順を身に付けるとともに、地域との協力体制を構築する	年2回に限らず、訓練を実施する 月1回のミーティングで、消火器の位置確認 連絡網の徹底 災害時避難マニュアルを職員に熟知してもらう 自治会を通じて、地域の協力を得る	1年
2	35	緊急時の対応、応急処置、初期対応について、具体的訓練を行っていない。	緊急時、応急手当が迅速にかつ落ち着いて行える	内部研修の中に勉強会を組み込み、実践訓練を定期的に行うことにより、スタッフ全員が理解できるようにする	6ヶ月
3	14	研修参加の機会が少ない	全てのスタッフが研修に参加できるようにする	年間計画を立て、全スタッフが研修の機会を持てるようにする 内部研修を定期的に企画する	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。